

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第55号（2021年）を刊行した。
2. 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加などをおこなった。
3. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（3件）を受け研究を進めた。
4. 三井文庫史料叢書『三井大坂両替店「聞書」2』の校正作業を進めた。
5. 三井関係資料の調査・収集は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のために休止した。
6. 閲覧業務は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため予約制のもと閲覧時間・人数に制限を設けて実施した。
7. 資料のデジタルアーカイブ構築（デジタル画像による公開、劣化対策並びに災害等に備えたバックアップ作成）のために所蔵資料のデジタル複製画像作成を進めた。
8. 所蔵資料分類目録の整備、所蔵図書目録のデジタルデータベース化などを進めた。
9. 書庫内の資料保存環境整備を進めた。
10. 公的諸機関（地方自治体史編纂等）の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
11. 三井の歴史に関する講演（オンライン）をおこなった。
12. 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。

II. 文化史・美術館関連事業

2005年の開館から16年が経過し、建築・内装・展示ケース・照明・空調・セキュリティ関係随所の設備更新が必要となったため、美術館設立当初のプロジェクトチームメンバーにより検討を重ね、2021年8月23日より休館し、2021年9月より美術館全館改修工事を開始した。

A. 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 美術館全館改修工事（2021年9月～2022年3月）にあたり、収蔵庫内の空気環境を適正に保ち、工期の区切りごとに4回空気環境測定を実施した。また、展示室・ケース内の空気環境測定を、工事前と工事終了後に合わせて4回実施した。いずれも文化庁文化財課・文化財活用センターの指導による。

2. 三井文庫別館収蔵庫の重量扉に開閉の不具合があり、メンテナンス工事を実施した。また、別館収蔵庫内の作品整理と環境整備を行った。
3. 三井不動産株式会社創立80周年記念事業として寄附金を受け、美術館として約7割の予算のもとに「三井の文化に関わる社会貢献—過去から未来へ—」のテーマで6項目を立て、今年度は以下の事業に着手した。
 - (1) 「1、収蔵品のデータベース化—②」、美術館収蔵品のなかから1,000点を選び、当館ホームページ上で公開するデータベース作成作業に着手した。
 - (2) 「3、三井の文化と社会貢献に関する出版—①」、三井家の文化史研究（仮称）の制作作業に着手した。
4. 「三井美術文化史論集 第15号」を刊行した。
5. 特別展図録の発行で執筆の協力をした。
 - 特別展図録『大蒔絵展—漆と金の千年物語』（朝日新聞社 2022年発行）
6. 国宝・重要文化財の刀剣6点を1件として、文化庁と東京都へ修理のための補助金交付申請を行った。
7. 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2019年9月17日から2024年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定中。
8. 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
9. 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。
10. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付を受け、研究を進めた。
 - (1) 基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」
(研究代表者・富田淳：九州国立博物館、研究分担者・清水実) 2020年度繰越金28万円、2021年度39万円(間接経費を含む)
 - (2) 基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」
(研究代表者・富田淳：九州国立博物館、研究分担者・海老澤るりは) 2020年度繰越金20万円、2021年度26万円(間接経費を含む)
 - (3) 基盤(B)「能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究」
(研究代表者・浅見龍介：東京国立博物館、研究分担者・海老澤るりは) 2021年度6.5万円(間接経費を含む)

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

1. 2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を最重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行した。新型コロナウイルス感染拡大防止の為にを行った対策は以下の通りである。

- (1) 開館時間の短縮（11：00～16：00、最終入館15：30）
- (2) 土曜講座、講演会、ナイトミュージアムの中止
- (3) 団体来館の受け入れ中止
- (4) 音声ガイドの貸出を中止し、「自然が彩る かたちとところ」展ではアプリ形式の音声ガイド『聴く美術』を導入
- (5) 来館者に対し、マスク着用をお願い、入館時の検温、手指の消毒、緊急連絡先（感染者が館内で発生した場合）のお預かり、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞をお願い
- (6) 展示室が密になることを避けるため、必要に応じ在館者数の上限を定めた入館制限
- (7) 職員のマスク・フェイスガード・手袋の着用、毎朝の検温

なお、上記の新型コロナウイルス感染拡大防止対策事業に於いては、文化庁による「令和2年度第3次補正文化芸術振興費補助金（文化施設の感染拡大予防・活動支援整備事業）」として532,000円の交付を受けた。また、緊急事態宣言下における臨時休館期間中の三井文庫直雇用の監視アルバイト4名に対し支払った休業手当の額を補填するため、厚生労働省による雇用調整助成金・緊急雇用安定助成金を申請し、417,312円の助成金交付を受けたほか、文化庁による「文化芸術振興費補助金（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」として、「三井記念美術館コレクション 雪月も花も友とて…茶箱と茶籠」、「三井記念美術館コレクション名品展 自然が彩る かたちとところ」を対象に、6,000,000円の補助金交付を受けた。

2. 今年度は、下記3回の展覧会を開催し、2021年4月1日から8月22日までに合計18,311人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,425,506人となった。

- (1) 「特別展 小村雪岱スタイル－江戸の粹から東京モダンへ」
（前年度より引き続き開催）（2021年4月1日～4月18日） 入館者数 7,395人
- (2) 「三井記念美術館コレクション 雪月も花も友とて…茶箱と茶籠」
（2021年6月1日～6月27日） 入館者数 4,695人
※会期は5月1日～6月27日であったが、緊急事態宣言発令および東京都の休業協力要請を受け、5月1日～5月31日を臨時休館とした。
- (3) 「三井記念美術館コレクション名品展 自然が彩る かたちとところ」
（2021年7月10日～8月22日） 入館者数 6,221人

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、田舎家の旧玄関、残月の間、松の間などの腐食部分の修繕工事を中心に実施した。「公開」に関しては、例年、外部講師を招いて研究会を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見送った。

<収益事業>

I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、現在は全フロア満室となっている。今年度はインターネットに関するセキュリティ点検、屋上キュービクル内の換気扇修理を実施したほかは、毎年実施している空調機の加湿器メンテナンスを実施した。

<事務局関係>

I. 役員会・役員人事

2021年6月16日に開催された定時評議員会（決議の省略（書面決議）の方式で開催）をもって、理事ならびに監事の全員が任期満了となるため、改めてその選任を諮り、末松謙一理事の後任として、北山禎介氏（株三井住友銀行 名誉顧問）を新たに理事に選任し、その他の理事9名および監事2名を再任した。

また、辞任の申し出があった田村和男評議員の後任として古賀博文氏（三井倉庫ホールディングス株 代表取締役社長）が、井上弘評議員の後任として武田信二氏（株TBSホールディングス 取締役会長）が、元山登雄評議員の後任として田中孝雄氏（株三井E&Sホールディングス 特別顧問）がそれぞれ評議員に選任された。

2021年6月30日に開催された理事会（決議の省略（書面決議）の方式で開催）において、6月16日に選任された理事のうち、理事長、副理事長、業務執行理事、常務理事の互選を諮ったところ、末松謙一代表理事・理事長に替わって、北山禎介理事が代表理事・理事長に選定された。また、岩沙弘道代表理事・副理事長、飯島彰己代表理事・副理事長および武田晴人業務執行理事・常務理事・文庫長、清水眞澄業務執行理事・三井記念美術館館長の重任が承認された。

II. 総務・人事関係

2021年3月に社会経済史研究室の研究員および司書各1名が退職したため、その後任として4月に研究員および司書を補充した。